

7月8日
雄大な初夏の摩周湖を満喫
エコミュージアムセンターの自然ふれあい行事



自然を満喫しながらの山歩き

川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「初夏の摩周湖外輪山を歩こう」が、7月8日に行われました。

参加者の皆さんは、摩周湖第1展望台から約4キロ先に広がる通称「風衝草原」を目指して出発。途中、ヤマブキショウマやチシマフウロ、ウツボグサなど、10種類ほどの花々を見ることができました。眼下に広がる摩周湖は穏やかな湖水をたたえ、ときおり薄く霧がかかる幻想的な姿も。摩周湖の植物や透明度に関する解説もあり、歩くだけでは分からなかった、神秘の湖の一味違う魅力に触れる1日となりました。

7月6日
ふるさとの釧路川を豊かに
リバープロテクション・21の会がヤマメを放流



元気に大きくなれと願いを込めて

釧路・リバープロテクション・21の会(上田光夫会長)主催によるヤマメの稚魚の放流が7月6日、摩周温泉公園の釧路川護岸で行われました。

魚類資源の回復のために毎年行っているもので、釧路開発建設部釧路河川事務所や町、会員など関係者約50人が参加。弟子屈小学校(阿部典子校長)の3・4年生の児童107人も招待され、体長5センチほどのヤマメが放流されました。上田会長は「昔のように、いつでもヤマメが見られて、釣りが楽しめるよう、資源回復に努めたい」と話していました。

7月14日
女性ならではの視点で道東を切り取る
写・フルールの写真展



道東の風景や動物などを中心に

女性写真愛好家のグループ「写・フルール」(高橋米子代表・41ページ参照)の写真展が7月14日まで、川湯エコミュージアムセンターで行われました。

「写・フルール ファースト展 パートⅡ」と題した写真展では、摩周湖の星空や見つけ合う白鳥、夕焼けの釧路湿原など、道東の自然や動植物をとらえた写真33点を展示。同センターを訪れる地元の方や観光客の方に、道東の魅力を発信しました。

7月13日
有意義な交流をこれからも
姉妹都市の鹿児島県日置市一行が来町



あいさつする宮路市長(左から3人目)

本町の姉妹都市・鹿児島県日置市の一行が7月13日、行政視察のために本町を訪れました。

来町したのは、宮路高光日置市長や同市議会議員など14人。15日には、リニューアルオープン1周年を迎えた道の駅「摩周温泉」での交流物産展に参加するために訪れた後発隊と合流し、記念行事を盛り上げました。13日、役場を表敬訪問した宮路市長は「有意義な交流を今後も深めていきたい」と話していました。

7月17日
みんなで住みよいまちづくりを
社会を明るくする運動の街頭啓発



買い物客に住みよいまちづくりを呼びかけ

社会を明るくする運動強調月間の7月、保護司や更正保護女性会などで組織する実行委員会の皆さんによるさまざまな啓発活動が行われました。

15日には、摩周の里夏まつりの会場で啓発活動を行ったほか、17日には、J A 摩周湖前とフクハラ摩周店前で買い物客にティッシュなどを手渡し、住みよいまちづくりへの理解と協力を呼び掛けました。

7月15・16日
日置市姉妹都市交流物産展も盛況
道の駅リニューアルオープン1周年記念イベント



観光客や地元の方でにぎわった物産展

昨年リニューアルオープンした道の駅「摩周温泉」の1周年を記念して、姉妹都市交流物産展が7月15・16の両日、開催されました。

交流物産展では、弟子屈の地場産品のほか、本町の姉妹都市・鹿児島県日置市の特産品である薩摩焼酎やお茶、農産物、海産物も並び、連日多くの人でにぎわいました。また、両日も先着200人に、同市名産・揚げたての「さつまあげ」が無料でプレゼントされ、訪れた方は南国の味に舌鼓を打っていました。

6月27日
釧路川ってきれいだね、気持ちいいね
おひさま・川湯両保育園児が川下りを体験



水しぶきに歓声

おひさま・川湯両保育園(清水節子園長)の年長児が6月27日、釧路川の川下りを体験しました。

地域の子もたちに、ボランティアで環境教育プログラムを提供している屈斜路ガイドステーションわか(木名瀬裕代表)の主催で、毎年行っています。ガイドが同乗したネイチャーボート4艇に28人の園児が分乗。好天のもと、水の感触を楽しみ、魚や水鳥を長めながら、屈斜路湖から釧路川美登里橋まで約3キロの川下りを楽しみました。

6月29日
地場産品の漬物で観光客を迎えたい
特産品加工センターがオープン



オープニング式であいさつする石原代表

町特産品加工センターが6月29日、摩周観光文化センター隣接地にオープンし、同日オープニング式が行われました。

同センターは、昨年7月の道の駅「摩周温泉」リニューアルオープンを受け、地元農産物や山菜などを漬物に加工、販売したいとの要望があったことから開設されたものです。開設に先駆け6月17日には、公募で集まった70歳以上の10人で漬物製造販売組織「ばあば加工センター」(石原くに代表)を設立。地場産や野菜などの漬物を作り、道の駅で販売していきます。

カメラスケッチ
広報マンが行く!!



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐごかけつけます。お気軽にご連絡ください。



企画財政課企画係 ☎482-2913(課直通)

7月1日
マイ箸作りに挑戦だ!
小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



初めての箸作りに挑戦

町内小・中学生対象の自然体験活動「もりのパレット探検隊」(川湯エコミュージアムセンター主催)の第2回目が7月1日に行われ、小学生20人が参加しました。

今回のテーマは「マイ箸作りに挑戦だ!」。まずは川湯の森を歩き、箸作りに使えそうな樹木の特徴や名前などを調査。堅さや重さ、匂いを感じるために、マサカリを使ってまき割りもしました。箸作りは7種類の中から自分で好みの樹種を選んでスタート。注意深く彫刻刀を動かしながら、真剣な表情で取り組んでいました。

6月30日
川下りで地元の自然の素晴らしさを再確認
カヌーガイドによるリバーフェス



一味違う自然の表情を楽しむ

釧路川リバーフェス'12(同実行委員会(土田祐也実行委員長)主催)が6月30日、釧路川源流部で開催されました。

町の皆さんに地元の素晴らしい自然を体験してほしいと、町内のカヌーガイドの皆さんによって開催されているもので、今年で4回目です。昨年に引き続き、東日本大震災のチャリティーイベントとして開催され、町民の皆さん85人が参加。カヌーで屈斜路湖を出発し、約3キロの釧路川下りを楽しみました。参加費の大部分と会場で寄せられた募金合わせて70,512円が、義援金として日本赤十字社を通して寄付されました。